

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 267 号	氏名	阿部 眞由美
学位審査委員	主 査	高村 昇	
	副 査	高木 正洋	
	副 査	溝田 勉	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価 本研究は、ケニアのビルハルツ住血吸虫症の流行地において、集団治療終了後に住民の再感染を予防するために湧き水を利用した安価な安全水施設が供与された村で、安全水供与の長期の効果を観察したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 住民の尿中の虫卵検査、川での水接触行動の観察、水道水利用状況の観察、および住民の水利用についてのアンケート調査を行い、水利用と感染者の空間分布との関連について種々の統計学的解析を行い検討したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、感染リスクが高い5～19才の住民においても、水道施設から一定距離内に住む人々では感染率が低く、川の水との接触量も少ないことを明らかにし、この村の共同水道施設の設置が感染予防に有効であったことを示した。この結果は、水道施設を適正に配置すれば、村全体における長期的な感染防御効果に寄与する可能性を示唆したもので、意義深い研究であるといえる。</p> <p>以上のように本研究は、開発途上国における安価かつ長期的な住血吸虫症対策研究について貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			